コラム

〈腰折れ文〉四、

渡邊澄子（会員）

繁忙の日が続き、今回の執筆が遅れた。十四日の金沢の室生犀星記念館での講演準備と家政大学での連続講座の準備に追われていたためだが、前日の富山一泊は、横山源之助研究者の教え子と、拙著『青鞜の女・尾竹紅吉伝』の読者という研究者に誘われてだった。富山は売薬の地だった。明治末から大正にかけて横山大観と並置された日本画家尾竹三兄弟の活躍開始の地でもあった。長兄尾竹越堂は紅吉（本名一枝）の父。その弟の竹坡は横山大観と並置された画家で、以前の目黒の雅叙園には竹坡の部屋があった。『青鞜』と言えば平塚らいてうと返ってくるが、紅吉なしに現在の位置づけはありえなかったのが歴史的真実なのだ。その後結婚したまだ無名の富本憲吉が世界の陶芸家になったのも、鷗外文学における女性像も、中村汀女が俳壇の重鎮になったのも一枝の力による。他にも多くの女性を輝かせた希有の魅力に溢れた「感知力」（藤村）抜群の女性で、私は虜になっている。この本を読んでくれた人との出会いは嬉しかったが、紅吉について『とやま文学』への寄稿を頼まれてしまった。犀星記念館では代表作『杏っ子』とそれと表裏をなす娘の朝子の『赤とんぼ記』を中心に話して好評を得たが、名誉館長を務める「有名作家のお祖父さま」を誇りとする孫の室生洲々子さんが聴いているので、戦時下の激烈な戦争協力文学や晩年の秘密の女性関係などには触れられず、悔いが残った。

金沢は大好きな地で講演や大学院での集中講義なども含めて十回以上も行っているが飽きない。今回も寺院や広大な市営墓地（ひときわ広い区画に犀星の九輪塔を飾った墓もある）など歩き回って三泊四日から帰って、翌日は家政大学での連続講座（漱石論）のレジュメ作り。その前にコラムをとパソコンに向かったところに、かなり以前の教え子が何人もでやってきて、大事な一日がつぶれてしまった。

旅から帰って四日間の新聞をひろげたら、選挙の記事であふれ、それも自民党が優勢の記事ばかり。なぜ？　なぜ？　九条を排除し、自衛隊を軍隊として明記するというとんでもない公約を堂々と叫んでいるのに支持なんて。森友・加計問題、原発（内部被曝も）問題、沖縄問題等々、真に国民にとって喫緊の課題には触れようともしないのに。安倍首相の選挙区には昭恵夫人がマイクを握って運動しているという。何と言う厚顔さだろうか。今日（10月18日）の『東京新聞』の「こちら特報部」欄の「現代と似通う昭和3年」は現在の政治状況を端的にかつ明確にまとめている。斎藤美奈子のコラムもいい。この拙文発表時には日本の行く手が決まっている。恐怖の道でないことを祈りたい。

◆原稿・写真など大募集◆

会員の皆様から、原稿・写真などを幅広く募集いたします。

○「みんなの写真館」

表紙および裏表紙の写真や絵画などを募集します。写真についての短いコメントも付けてください。思い出の写真、珍しい写真、力作の写真、なんでもお待ちしています。

○「旅行記」「体験記」「書評」「詩」「小説」など

多様な原稿を募集いたします。

○編集部体制で「善隣」誌の編集に当たります

会員の皆様にできるだけ参加していただけるよう試みてまいります。

原稿の長さ、書き方、原稿送付方法等、お気軽にご相談ください。事務局にお伝えいただければ、追って編集部からご連絡をさせていただきます。（編集部）